SUNPOT

# サンポット
# 石油温風暖房機

## 据付工事要領書

## FF-287CTS

●温風暖房機をお客様に正しく、安全にご使用いただくために、この「据付工事要領書」をよくお読みの上指定された工事を行ってください。
●ご使用になる地区の火災予防条例に従って工事を行ってください。
●お客様が今後も、この「据付工事要領書」が必要になる場合もありますので、この「据付工事要領書」はお客様に渡し、保存してもらうようにしてください。

サンポット株式会社

# 目　　次

# 1,安全上のご注意

●設置工事の前に、この「安全上のご注意」を良くお読みのうえ設置してください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味は次のようになっています。

■表示の説明

| | |
|---|---|
| ⚠ 警告 | 取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。 |
| ⚠ 注意 | 取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合、及び物的傷害の発生が想定される内容を示します。 |

■図記号の説明

| | |
|---|---|
| 禁止 | してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。 |
| 強制 | 必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。 |
| ⚠ 注意 | 警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の脇には、具体的な警告内容が示されています。 |

●設置工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、お客様に取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付工事要領書は取扱説明書とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。

## ⚠ 警告

●暖房機が使用する燃料及び電源に適合していることを確認してください。
●設置は、お買い上げの販売店に依頼してください。
●設置工事は、この据付工事要領書に従って確実に行ってください。
設置に不備があると破裂・けがの原因になり、また感電、火災の原因になります。
●設置は、重量に十分耐える所に確実に行ってください。
●電気工事は、電気設備に関する技術基準、内線規程および据付工事要領書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
また、電圧は製品の定格電圧と合わせてください。
電源回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。
●設置工事部品は、必ず附属部品または指定の部品を使用してください。
使用しないと、火災、感電の原因になります。
●機器は周囲の可燃物との離隔距離を保ってください。
離隔距離を保たないと火災の原因になります。
●設置工事完了後、「設置工事後の点検・確認」に基づいて必ず再確認を行ってください。

●アースを行ってください。
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

●排気管・給排気筒トップの設置は可燃物との離隔距離を保ち、接続を確実に行ってください。
離隔距離を保たない場合もしくは接続に不備があると火災・一酸化炭素中毒の原因になります。

## ⚠ 注意

●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所には設置しないでください。
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
●暖房以外の用途に使用しないでください。



# 2,設置上のご注意

■用途

この温風暖房機は対人暖房用に設計されています。温室、養蚕室、温蔵庫、乾燥室等には使用しないでください。また、常時人のいないところにも設置しないでください。

■設置できない場所

この温風暖房機は、ごく普通の場所で使用するように設計されています。従って、次のような特殊な場所での使用は温風暖房機の寿命を著しく短くすると共に、保証の対象外になっていますので、ご注意ください。
①海浜地区等の塩分の多いところ
②温泉地区等の亜硫酸ガスのあるところ
③実験研究室、印刷所等周囲で化学薬品を使用するところ
④車輌・船舶への搭載
⑤プールのような塩素や湿気が多い場所
⑥高温になる場所
⑦大量の粉塵が舞う場所
⑧オイルミストが舞う場所
その他、火災予防条例等で、火気の使用が禁止されている場所もありますので、所轄の消防署にご確認ください。

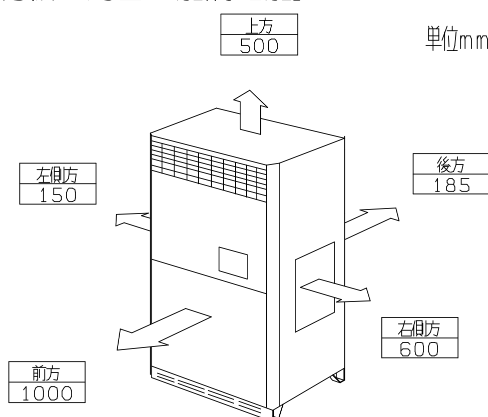
■設置場所の選定

以下の事項を留意して設置場所を選定してください。
①設置後の保守・管理が容易に行える場所としてください。
②床面に傾斜などなく、安定した場所としてください。
③ドアや階段・避難口の近くには設置しないでください。
④カーテンなど燃えやすいもののそばには設置しないでください。
⑤浸水の恐れのある場所には設置しないでください。
⑥電源コードの長さは2mです。間近の電源コンセントがない場合は、専用コンセントを設置してください。
⑦本体が床面及び壁面に確実に固定できる場所としてください。
⑧給排気筒の総延長を3m3曲りとしたときに、給排気筒トップが屋外に設置できる場所としてください。
⑨温風が十分行きわたる場所としてください。
⑩高周波を発生する機械がある場所は避けてください。

■周囲構造物との離隔距離

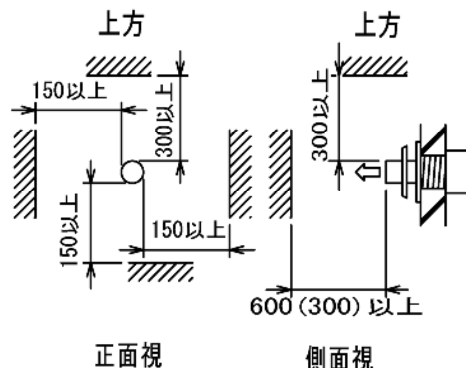
火災予防上の所定の距離が十分にとれる場所に設置してください。防火構造の構造物であっても、給排気筒やバ ーナ等の点検、手入れ等がやりやすいように、サービススペースが必要です。火災予防上安全な距離及びサービススペースを確保するために、最小限次図に示す距離を確保してください。

［暖房機と周囲の離隔距離］




※床面及び背面吸込みとなっておりますので、吸込口を塞ぐと過熱の原因となります。

［給排気筒トップと周囲の離隔距離］




単位mm
（）内寸法は防熱板使用時

■純正給排気筒

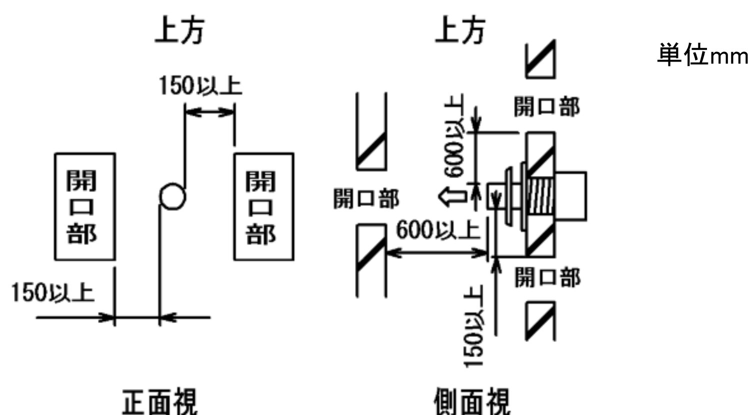
別売で弊社純正給排気筒を用意しています。純正品以外を使用すると、規定の性能が確保されないばかりでなく、故障や重大事故の原因となります。又、保証の対象外となりますので、必ず弊社純正給排気筒をご使用ください。

■給排気筒の最大延長

給排気筒の総延長距離は3m3曲りです。
（ただし、暖房機に直接接続する90°エルボの曲り及び給排気筒の曲りは含みません。）
これを超えてご使用になると、故障や重大事故の原因となりますのでやめてください。

■給排気筒取り出し場所の選定

給排気筒の取り出し場所は、以下の事項に留意して選定してください。
①給排気筒トップは必ず屋外に出るように取り付けてください。
②風が強く当たる場所に給排気筒トップを直接出すのはなるべく避けてください。
③給排気筒トップは子供の遊び場や人通りの多い場所へ飛び出さないように取り付けてください。火傷や給排気筒トップを損傷する恐れがあります。
やむを得ずそのようなところに設置する場合には、別売の「給排気筒トップ保護カバー」をお買い求めの上、取り付けてください。
④給排気筒トップは雪や落葉の吹き溜まりになるような場所には取り付けないでください。寒冷地では特に積雪やつらら等により給排気筒トップがふさがらないように取り付けてください。異常燃焼や重大事故の原因になります。
⑤給排気筒トップは集合煙突の中には絶対に取り付けないでください。
⑥壁内の鉄筋、電気・電話配線、ガス管・水道配管等を十分考慮してください。
⑦床下や天井裏に給排気筒トップを設置しないでください。
⑧カーテン等の可燃物が給排気筒に接触しないように取り付けてください。
⑨給排気筒は周囲に引火物や危険物（ガソリン、灯油、プロパンガス等）がある場合には取り付けないでください。
⑩植木や愛玩動物は給排気筒トップから遠ざけてください。
⑪給排気筒トップは排気ガスが滞留しない十分開放された空間に設置してください。開放廊下や下がり壁のある天井面付近などには注意が必要です。滞留した排気ガスが給気側に吸込まれると、異常燃焼の原因になります。
⑫排気ガスが室内に流入しないように、暖房中に開放される窓や換気口等から次図に示す距離を確保した位置に給排気筒トップを設置してください。
⑬給排気筒トップの先端から小さな虫等が進入すると、燃焼不良等をおこす可能性があります。このような場所に設置する場合には、別売の「給排気トップ用防虫網」をお買い求めのうえ取り付けてください。




■その他の注意

①給排気筒は確実に接続してください。排気ガスが室内に漏れると重大事故の原因になります。
②排気管と給気ホースは接触しないように組み立ててください。
③標高1,000m以下でご使用ください。1,000mを超え（1,500m以下）で使用する場合は再調整が必要です。お買い求めの販売店にご依頼ください。
④暖房機本体や給排気筒を改造して使用することはやめてください。
故障や重大事故の原因となります。また、保証の対象外です。
⑤周波数の異なる地域への移設については、試運転及び調整が必要となる場合がありますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

# 3,開梱

■開梱の際の注意

①手荒に扱わないでください。
②温風暖房機を横倒しにしたり、上下逆さまにしたりしないでください。本体が損傷する恐れがあります。

■付属品の確認

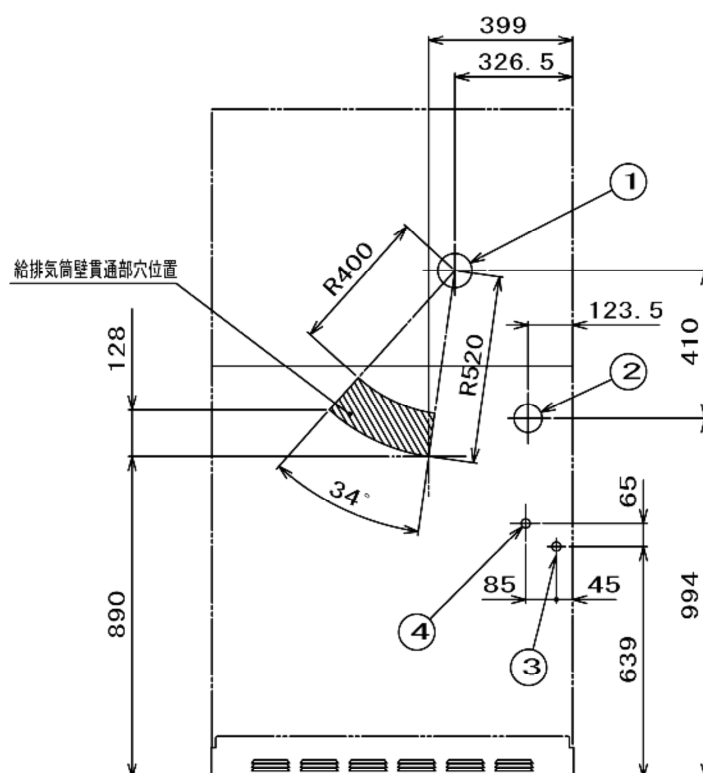
付属品は、バーナ室から取り出しお客様に必ず渡してください。
付属品として次のものが用意されていますので確認してください。

| | |
|---|---|
| ゴム製送油管 | 1本 |
| ホースバンド | 2個 |
| オイルストレーナ | 1セット |
| 木ネジ | 2本 |
| 本体固定金具 | 4個 |
| 取扱説明書 | 1冊 |
| 据付工事要領書 | 1冊 |
| 保証書 | 1部 |

# 4,据付前の準備

給排気筒、電源取入口、燃料配管取入口等は、全て暖房機の背面にあります。従って、暖房機を据え付ける前に予め、工事を完了させておく必要があります。下図に標準の給排気筒セットを使用したときの暖房機との接続位置を示します。

本体正面視




| 記号 | 名称 |
|---|---|
| 1 | 排気口 |
| 2 | 給気口 |
| 3 | 電源取入口 |
| 4 | 油配管接続口 |

※給排気筒トップ取付の壁貫通部の穴径は、下表を参照してください。
また、壁厚が表の値よりも厚い場合もしくは薄い場合は、お買い求めの販売店にご依頼ください。

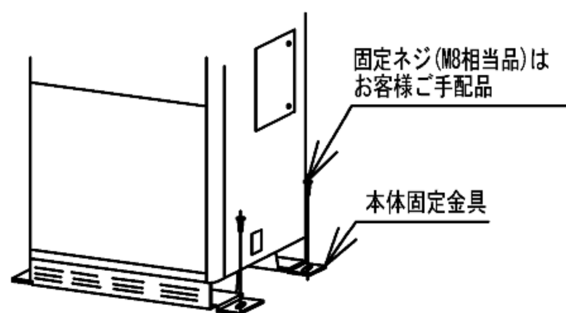
| 壁厚（mm） | 130～390 | 390～495 | 495～600 |
|---|---|---|---|
| 壁貫通部穴径 | φ135～φ140 | φ140～φ145 | φ145～φ150 |

# 5,本体の据付要領

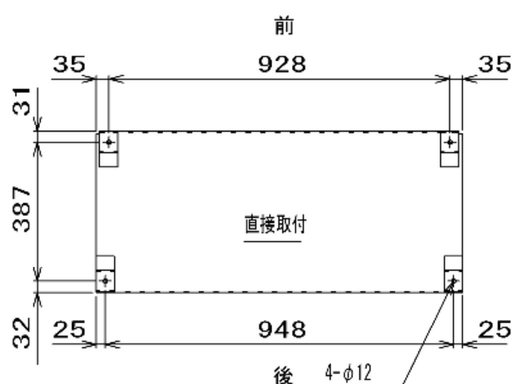
次に説明する要領で暖房機を確実に固定してください。
※給排気筒を本体に接続したあとで固定してください。

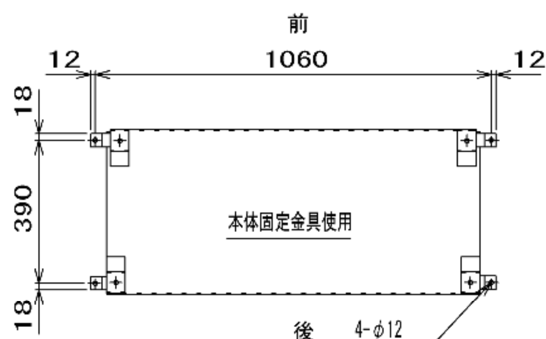
■床面への固定

固定ビスは、床面の材質により適切なものを選定してください。

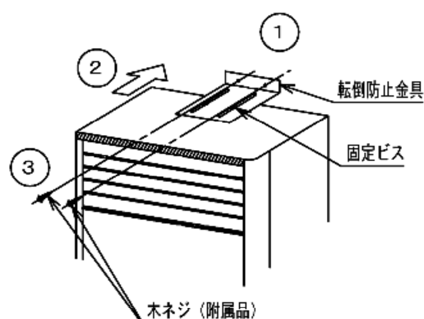



固定ネジの穴位置寸法




■転倒防止金具の取付




①転倒防止金具を一旦取り外し、左図に示す方向に取り付けてください。このとき固定用のビスは仮止めの状態にします。
②転倒防止金具を矢印方向に移動させ壁面に密着させます。
③付属する木ネジで、転倒防止金具を壁面に固定させてください。
④固定ビスを締め付けて暖房機を転倒防止金具に確実に固定してください。

※壁面が石膏ボード及びコンクリート等の場合には、付属の木ネジだけでは固定できません。
市販のコンクリートプラグ（ねじ径φ4用）や中空壁用プラグ（ねじ径φ4用）を予め打ち込む必要があります。

# 6,給排気筒の取付要領

別売の弊社純正給排気筒をお買い求めの上、正しく接続してください。

■給排気筒の役割
給排気筒は燃焼用空気を屋外から取り入れ、燃焼排ガスを屋外に排出する役割をするだけでなく、燃焼室の圧力をバランスさせる役割もあり、燃焼上極めて重要な働きをします。
誤った取付は燃焼不良や火災等の原因になりますのでご注意ください。

■標準の給排気筒セット（壁厚130～235mmに対応）
別売の給排気筒セット（品番：FT-15S5）は、壁厚や給排気筒延長に関係なく必要な部材です。
下図は給排気筒セットの内訳です。ダンボールを開梱し全ての部品がそろっていることを確認してください。

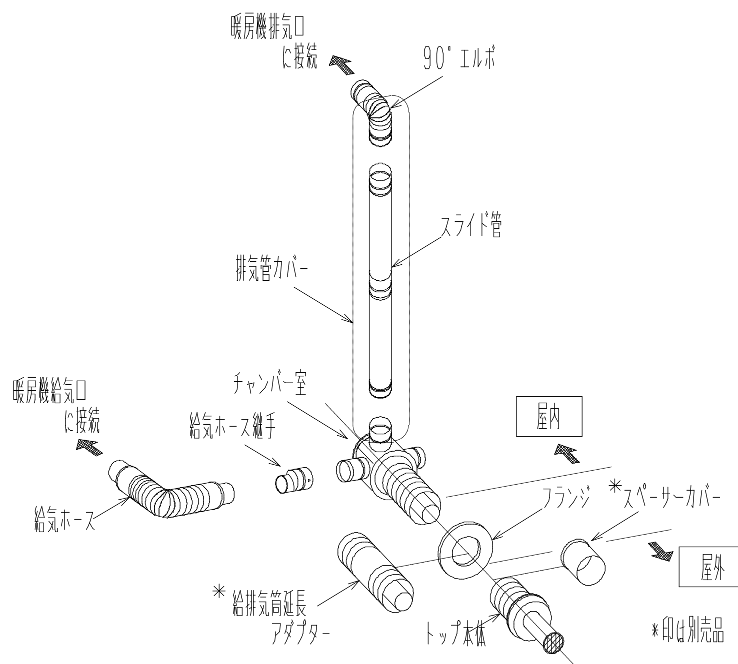
| 給排気筒トップ（1個） | スライド管（1本） | 給気ホース（1本） | 90°エルボ（1個） |
|---|---|---|---|
| | | | |
| 排気管カバー（1個） | 給気ホース継手（1個） | 木ネジ（4本） | ホースバンド（2個） |
| | | | |

■壁厚により必要となる部材
標準の給排気筒セットは、壁厚が130～235mmの時に使用できます。壁厚がこれ以外の時は、別売の部材が必要となりますので下表から選定しお買い求めください。

| 壁厚 | 品番 | 名称 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 0～130 | FT-S | 給排気筒スペーサー | |
| 235～390 | FT-A | 給排気筒延長アダプター | 注） |
| 390～495 | FT-B | 給排気筒延長アダプター | |
| 495～600 | FT-C | 給排気筒延長アダプター | |

注）スペーサーは給排気筒延長アダプター（FT-A）にのみ装備されています。
壁厚が235～286mmの範囲の場合に使用します。

■組立概要

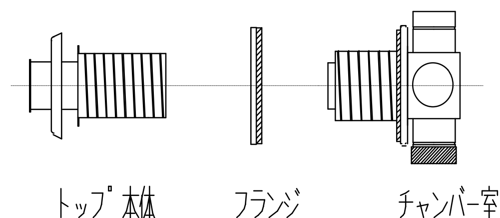



注）給排気筒トップは、図に示すようにチャンバー室、フランジ及びトップ本体に分割されます。

■組立手順

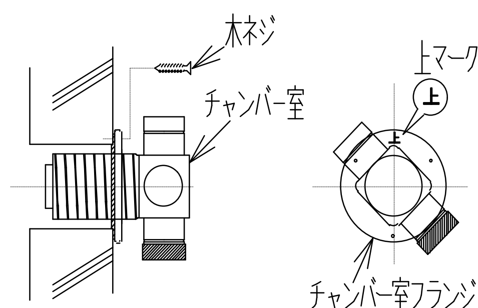
次の手順で給排気筒を組み立ててください。

（1）給排気筒トップをトップ本体、フランジ及びチャンバー室に分離してください。

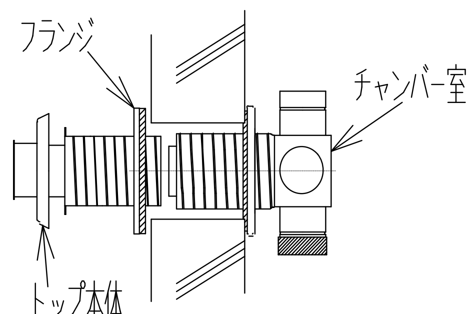



（2）チャンバー室を予めあけた壁面のスリーブに挿入し、付属の木ネジで壁面に固定してください。
この時、チャンバー室のフランジ面に刻印してある「上」マークが必ず上方に向くようにしてください。

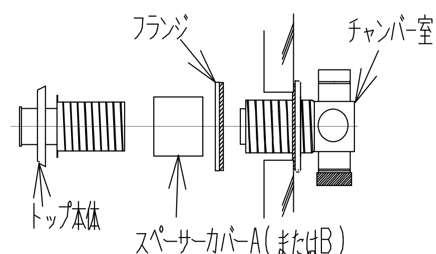
注）チャンバー室は回転します。木ネジを固定するときに邪魔にならない位置に回転させてください。



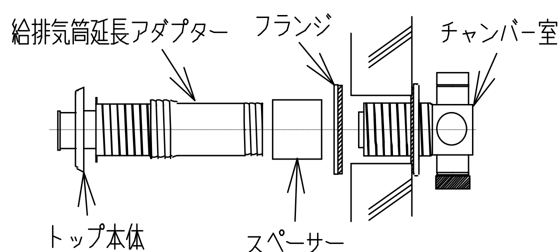

（3）外壁面にフランジを挟み込みながら、外側からトップ本体を挿入し、チャンバー室にねじ込みトップ本体を確実に固定してください。
フランジ面にも同様に「上」マークが刻印されていますので、必ず上方に向くように組み立ててください。
（壁厚が130～235mmの範囲の場合）



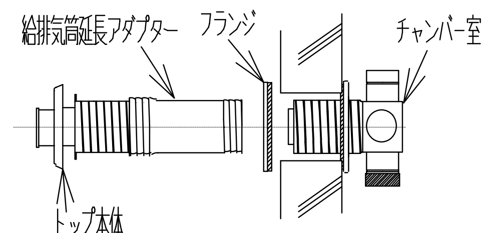
① 壁厚が130mm以下の場合
この場合は、フランジとトップ本体との間にスペーサーカバーBを挿入してください。



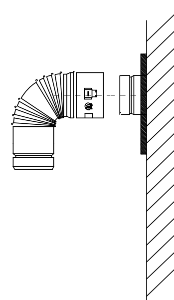

② 壁厚が235～286mmの場合
この場合は、まずトップ本体に給排気筒延長アダプターを止まるまで奥深く確実にねじ込み、トップ本体とフランジ間にスペーサーを挿入してください。



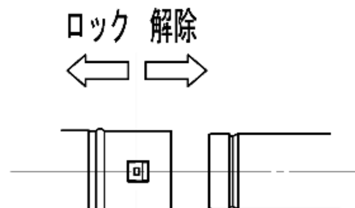

③ 壁厚が286～600mmの場合
この場合は、予めトップ本体に給排気筒延長アダプターを止まるまで奥深く確実にねじ込んだ上で組み付けてください。




（4）暖房機本体の排気口に90°エルボを差し込んでください。

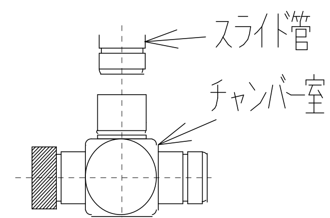


[ワンタッチ継手について]
排気管の接続部はワンタッチ式抜け防止構造になっています。次の要領で脱着してください。
①組立要領
「カチッ」と音がするまで奥深く差し込んでください。ツメが図の位置にセットされた状態でロックされます。ツメの位置が解除の位置にある場合には、ロックの位置に移動させてください。
②取り外し要領
ツメの位置を解除の位置に移動させて継手どうしを引っ張ると抜けます。

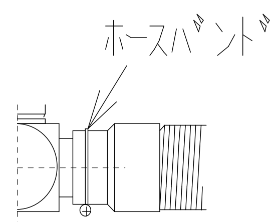


（5）同様の要領で、90°エルボをスライド管に接続してください。

（6）スライド管の片端をチャンバー室に接続してください。

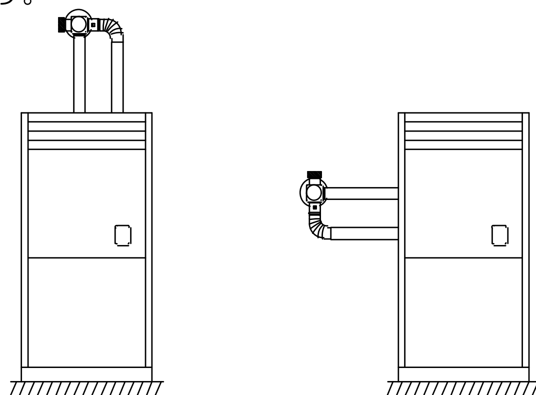



（7）チャンバー室と暖房機本体の給気口との間に給気ホースを十分に差し込み、付属品のホースバンドで固定してください。



# 7,給排気筒の延長

標準の給排気筒セットでは長さが足りない場合、総延長3m3曲がり（４５゜曲がり、９０゜曲がりを共に１曲がりとする）の範囲で給排気筒を延長することができます。
下図にその1例を示します。



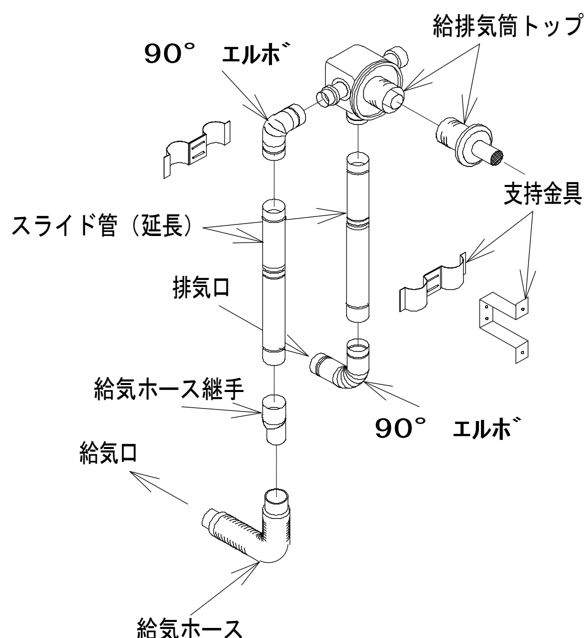
縦延長　　　横延長

■延長部材の選定

スライド管の長さにより3種類の延長部材（別売）を用意しています。下表から適切なものを選定し、お買い求めください。

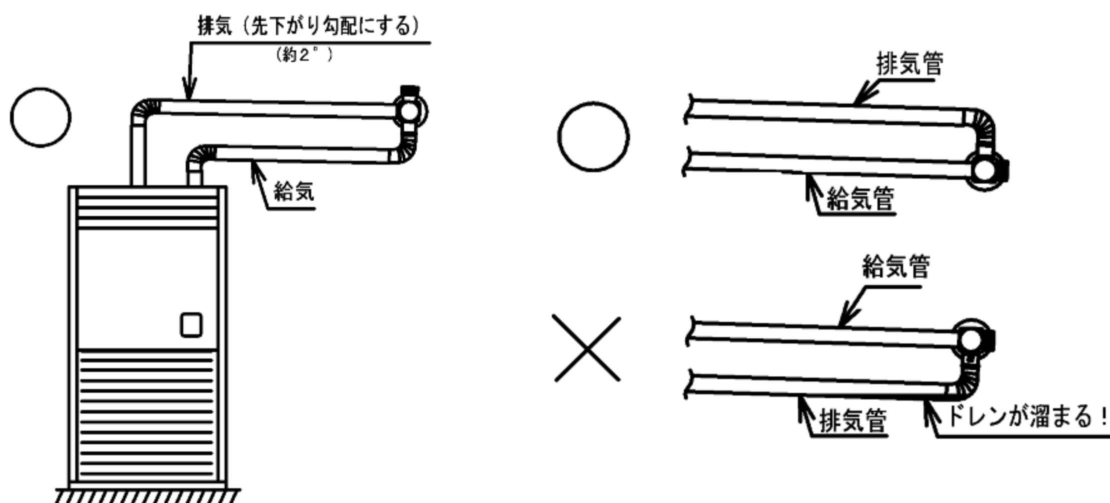
| 名称（品番） | スライド管長さ（mm） | 内訳 |
|---|---|---|
| 延長パイプセットA（FB-5S5） | 315～500 | スライド管（2　排気管カバー（1本）　支持金具（1組）　木ネジ（2個）<br>90゜エルボ（1本）　ナット（4個）　平ワッシャ（4個）　+小ネジ（4本） |
| 延長パイプセットB（FB-10S5） | 575～1,000 | |
| 延長パイプセットC（FB-15S5） | 835～1,500 | |

■組立概要



■延長パイプセット等を複数使用し延長を行う場合

①配管部材は単品でも用意しています。お買い求めの販売店にご相談ください。
②給排気筒は総延長を3m3曲り（45°曲り、90°曲りを共に1曲りとする）までとしてください。
③給排気筒トップに接続する横引き管は、先下がり勾配（約2°）を付けてください。



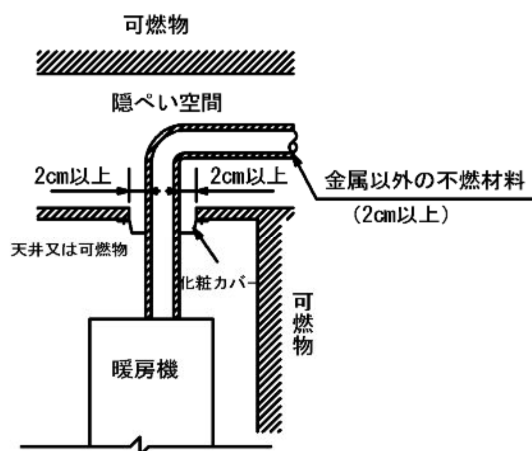

■排気筒の保温

本機は高効率タイプの機種であるため、排ガス温度が低く設定されています。
次のような場合において、給排気筒の延長を行う場合は、ドレン発生を抑えるため排気筒の保温を行ってください。
また、給排気筒の総延長は、必ず3m3曲りまでとしてください。

①暖房機を半屋外（修理工場、ガレージ等）に設置し、低温雰囲気で使用する場合
②排気筒を屋外や半屋外に設置する場合
③給排気筒トップからドレンを発生させたくない場合
（トップ部分は通常でもドレンが出ることがあります。）

■天井裏飛込部の場合

排気筒の天井裏飛込部は、厚さ2cm以上のロックウール保温筒またはこれと同等以上の性能を持つ金属以外の不燃材料で被覆し、金網で保護したもので断熱施工し、可燃物からの離隔距離を2cm以上としてください。



■給排気筒を天井裏等の隠ぺい部に設ける場合

排気筒・給排気部の全長が目視できるように点検口等が必要です。

①点検口は、隠ぺい部分が全長にわたって点検できるように配置し、また通気口は2カ所以上設けてください。

②隠ぺい部分で間仕切り壁を貫通する場合は、その壁の近くに点検口を設けてください。

③隠ぺい空間への飛び込み部と屋外突出部の通気口は、点検口と兼用しても構いません。

④間仕切り壁等を貫通する場合は、排気筒・給排気部の周囲に空気が通るように十分な空間を設けてください。

# 8,灯油供給管の接続

油タンク設置をはじめとして、灯油の供給設備については、各地の火災予防条例に従って工事を行ってください。

■油タンク据付

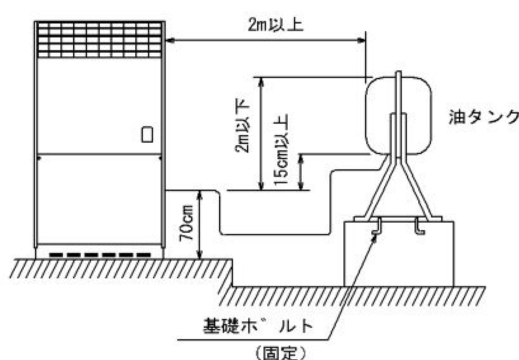
（1）据付場所の選定

次のことに留意して据付場所を選定してください。

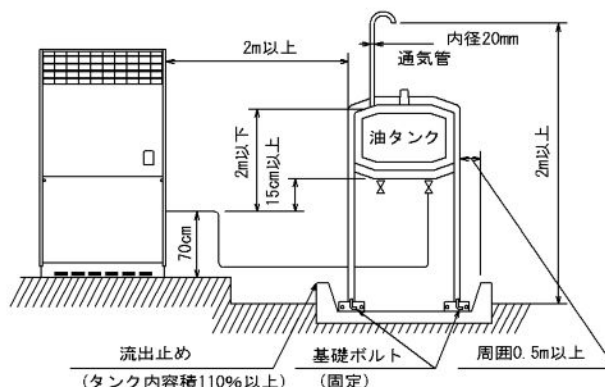
①熱、振動、衝撃等を受けない場所としてください。
②温風暖房機との間に防火上有効な壁等がない場所では2m以上離してください。
③なるべく直接日光が当たらず、雨水が直接かからない場所に据え付けてください。
④雪に埋もれない場所に据え付けてください。
⑤可燃性の床面に直接据え付けないでください。

（2）油タンクの設置高さ

油タンクの設置高さは、下図に示す通りの範囲内になるように据え付けてください。




200㍑未満の油タンクの場合




200㍑以上1,000㍑未満の油タンクの場合

（3）その他の注意事項

①前述の通り、油タンクから暖房機には自然落下で灯油を供給しなければなりません。
設置場所の関係で、油タンクが暖房機より下方に設置せざるを得ない場合には、別売のオイルサーバ等をご使用下さい。
②灯油200㍑以上を貯蔵する場合は、消防署への届出が必要です。
③1,000㍑以上を貯蔵する場合は、危険物施設の基準に従ってください。

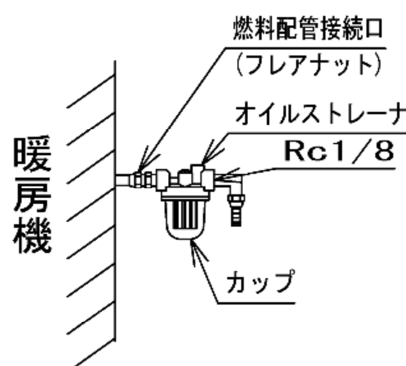
※②、③については、各地域の消防署に再度ご確認ください。

■灯油配管接続

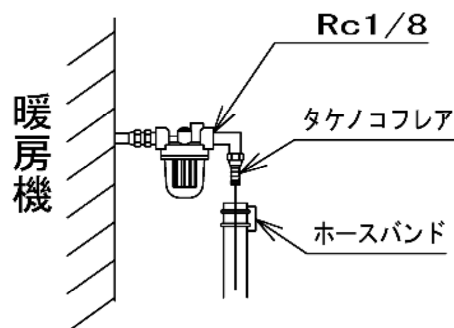
（1）接続手順

次の手順で暖房機に灯油配管を接続してください。

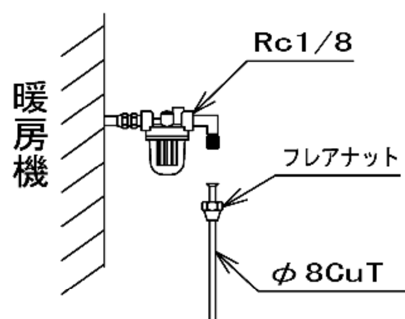
①付属するオイルストレーナを右図に示すように取り付けてください。
オイルストレーナカップが下方に向いていることを確認してください。



②灯油接続管にゴム製送油管を使用する場合は、
右図のように接続してください。
尚、ゴム製送油管は必ず規定品1/4ゴム送油管（JIS S3022）を使用してください。
また、ゴム製送油管はタケノコフレアに確実に差し込みホースバンドで固定してください。

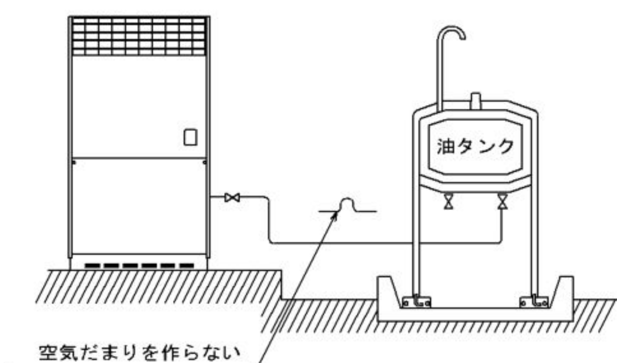



③灯油接続管にφ8銅管を使用する場合は、オイルストレーナのタケノコフレアを外し、右図のように接続してください。




（2）灯油配管接続の注意事項

①ゴム製送油管は屋外に設置したり、埋設しないでください。劣化し油漏れをおこすことがあります。また、重量物によってつぶれないように設置してください。
②暖房機の間近に必ず中間コックを設けてください。（サービス用）
③φ8を超える銅管を使用すると、空気だまりができ送油できないことがあります。
④配管の総延長はできるだけ短く（目安10m以下）してください。長い場合、灯油がスムーズに流れないことがあります。
⑤送油管は途中で逆U字に盛り上げたり、もつれさせたりしないでください。空気だまりができて灯油がスムーズに流れないことがあります。
⑥配管加工中に生じるゴミ、切りくず、切り子を除去してから配管を組み付けてください。



# 9,電気配線

| ⚠ 警告 | |
|---|---|
| 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付工事要領書にしたがって施工し、必ず専用回路を使用してください。<br>電源回路容量不足や施工不備があると火災、感電の原因になります。 |  |
| アースを必ず取り付けてください。<br>法律によるD種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。 |  |

| ⚠ 注意 | |
|---|---|
| たこ足配線はやめてください。必ず専用コンセントを設けてください。 |  |
| 歩行者が電源コードを引っ掛けないような位置に専用コンセントを設けてください。 |  |

■電源

電源は単相100Vです。暖房機には長さ約2mの電源コードが付いています。許容電流容量が15A以上のコンセントに接続してください。

# 10,設置工事後の点検・確認

設置工事が終わりましたら、次の項目を確認してから試運転を行ってください。

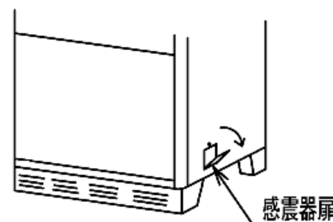
■設置の点検・確認
①床面に傾斜などなく、安定した場所に確実に固定されていること。
②火災予防上の所定の距離が十分にとれる場所に設置されていること。（P2～3参照）
③暖房機が転倒防止金具で確実に固定されていること。

■給排気筒の点検・確認
①給排気筒の総延長距離は3m以下のこと。曲りは3カ所以下のこと。
②給排気筒トップが屋外に取り付けてあること。
③給排気筒トップが子供の遊び場や人通りの多い場所へ飛び出さないように取り付けてあること。
④給排気筒トップが集合煙突の中に取り付けていないこと。
⑤給排気筒トップが床下や天井裏に取り付けていないこと。
⑥可燃物、カーテン、洗濯物などが給排気筒に接触していないこと。
⑦給排気筒の近くに危険物・障害物がないこと。
⑧給排気筒トップが周囲と火災予防上の距離を確保した位置に設置してあること。
また、窓や換気口等から規定の距離を確保した位置に設置してあること。
⑨給排気筒トップが屋外に向かって下り勾配で取り付けてあること。

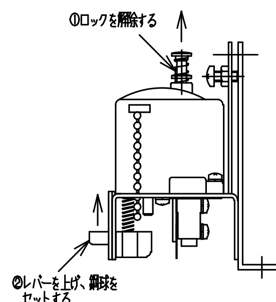
■電気配線の点検・確認
①使用電源は定格銘板に表示してある電源と合致すること。
②専用回路から電源をとっていること。
③たこ足配線をしていないこと。
④アース接地が確実に行われていること。

■油配管接続の点検・確認
①油漏れを十分に確認のこと。
②油タンクは安全な場所に設置してあり転倒や落下の恐れがないこと。

■感震器のセット
工場出荷時は感震器がロックされた状態です。
このままでは運転できませんので、次の方法でセットしてください。




（1）感震器の位置
感震器扉を外すと感震器があります。
（2）ロックの解除方法
テストボタンを反時計回りに回転させるとテストボタンが上方に飛び出して感震器内部の硬球のロックが解除されます。
（3）セット方法
ロックの解除を確認した後、リセットレバーを上方にゆっくりといっぱいまで上げてください。硬球が中央の軸に静止しセット状態になります。
（4）水平・垂直あわせ
クサリが穴の中心にあることを確認してください。
穴にクサリが接触している場合は、調整ネジで調整してください。



# 13,試運転

1.電源プラグをコンセントに確実に差し込みます。
2.試運転の要領は取扱説明書に記載してありますので、取扱説明書を参照して行ってください。

■お客様への説明

●「保証書」「取扱説明書」「据付工事要領書」を必ずお客様に渡してください。
●「取扱説明書」にもとづいて、操作方法（特に室温調整）、エアフィルターの掃除の仕方、アフターサービスの連絡先と製品保証期間・保守点検などを十分ご説明のうえ引き渡しをお願いします。

# サンポット株式会社

| お客様相談窓口　〔受付時間：平日午前９時から午後５時まで〕 |
|---|
| ☎ 0198-37-1177　FAX. 0198-37-1192 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 札　幌　支　店 | 〒065-0042 | 札幌市東区本町２条１０丁目１番２５号 | ☎ 011-785-1211 | FAX 011-782-8262 |
| 釧路営業所 | 〒085-0051 | 釧路市光陽町８番１号 | ☎ 0154-22-5821 | FAX 0154-32-2289 |
| 帯広営業所 | 〒080-0023 | 帯広市西１３条南１１丁目９番地 | ☎ 0155-22-1335 | FAX 0155-28-2266 |
| 旭川営業所 | 〒078-8237 | 旭川市豊岡７条６丁目６番１０号 | ☎ 0166-34-8636 | FAX 0166-39-2157 |
| 函館営業所 | 〒041-0851 | 函館市本通４丁目１７番２５号 | ☎ 0138-53-2583 | FAX 0138-33-2180 |
| 仙台営業所 | 〒983-0034 | 仙台市宮城野区扇町４丁目２番４０号 | ☎ 022-236-3444 | FAX 022-238-9416 |
| 郡山営業所 | 〒963-8041 | 郡山市富田町字音路１番地１０９ | ☎ 024-962-9288 | FAX 024-962-9266 |
| 青森営業所 | 〒030-0131 | 青森市問屋町２丁目１８番１８号 | ☎ 017-738-4141 | FAX 017-738-5354 |
| 秋田営業所 | 〒010-0914 | 秋田市保戸野千代田町１５番１７号 | ☎ 018-824-3421 | FAX 018-824-3423 |
| 岩手営業所 | 〒025-0301 | 花巻市北湯口第２地割１番地２６ | ☎ 0198-37-1138 | FAX 0198-37-1188 |
| 首都圏営業所 | 〒352-0001 | 新座市東北２丁目２４番３号 | ☎ 048-471-8420 | FAX 048-470-1141 |
| 信越営業所 | 〒381-0031 | 長野市大字西尾張部１１１４番地５ | ☎ 026-252-6161 | FAX 026-252-6162 |
| 大阪営業所 | 〒564-0053 | 吹田市江の木町１８番２７号 | ☎ 06-6337-3211 | FAX 06-6337-3212 |
| 富山営業所 | 〒939-8212 | 富山市掛尾町４７９番地４ | ☎ 076-420-2677 | FAX 076-420-2238 |

**サンポットエンジニアリング株式会社**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| サービス部 | 〒065-0042 | 札幌市東区本町２条１０丁目１番２５号 | ☎ 011-785-1201 | FAX 011-780-2338 |
| 青森ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ | 〒030-0131 | 青森市問屋町2丁目18番18号 | ☎ 017-738-4414 | FAX 017-738-4415 |

サンポットホームページ　http://www.sunpot.co.jp/

事業所名・住所・電話番号は変更することがあります。あらかじめ了承願います。

| ご購入（据付）年月日 | 年　　月　　日 |
|---|---|
| ご購入店名 | |
| | TEL |

お客様へ‥‥‥おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。